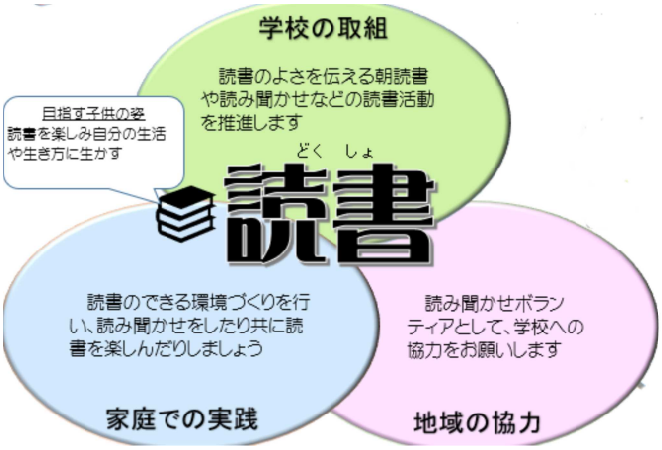
鬼石中だより

回覧
藤岡市立鬼石中学校
令和5年度学校だより　第4号
令和５年７月１３日
文責：校長　永田

アクションプラン特集

＊ 読書で豊かな生き方を ＊



本年度、鬼石連携型小中一貫校学校運営協議会で策定した「アクションプラン・4つの重点」のひとつ「読書」について特集します。

学校では、図書委員会を中心としたスタンプラリーやおすすめ本の紹介、毎日の朝読書の実践を進めています。（裏面参照）

地域のボランティア（おにしわくわくネットワーク）の皆様には、月に一度、読み聞かせをしていただき、読書の楽しさや魅力を伝えていただいています。いつもありがとうございます。

各ご家庭ではいかがでしょうか。子供と一緒に本を読んだり、読み聞かせをしたりしているというお話を耳にする機会がある一方で、「親も子も忙しくて・・・」「ゲームやSNSばかりで・・・」などという理由から、なかなか家庭での読書が進まないという話もお聞きします。

今回は、鬼石中学校の図書館司書による経験談やちょっと面白い読書の効用について掲載しましたので是非ご一読ください。

「読む本はなんでもいい」

あるとき、7歳になる息子が学校から帰ってきて私にこう言った。

「ねぇ、『りんごかもしれない』って本知ってる？」

今では言わずと知れた人気作家、ヨシタケシンスケさんがかいた大人気絵本である。

その本のことを知らなかった私は、「あーだこーだ」と楽しそうに本の説明をしてくれる息子の話を、うれしさと本への興味が合わさったようなわくわくした気持ちで聞いていた。

話し終えた息子に「面白い本があったら、また絶対教えてね。」と目を見て伝えた。めでたく親子のコミュニケーションツールの一つが確立した瞬間である。同時に、幼少期から思春期にかけて、自分も大人や年上の人にいろいろな話や本を読み聞かせてもらった楽しい思い出がよみがえった。それはつまり、話す方も聞く方も楽しい！ということだ。

子どもというのは、（私のように大人になっても）、いくつになっても読み聞かせが大好きだ。絵本や物語はその多くがフィクションなのに、聞きながら無意識のうちに登場人物と自分を比較したり、共通点を見いだそうとしたりしている。それは、自分以外の人や生き物に共感したり、綺麗な景色を見て感動したり、好きなアイドルやアクターに熱を上げるのと原理が似ている。つまりは、それらを見たり聞いたり感じたりして、自分の中の「好き」とか「あぁ、なるほど」といった欲求と向き合い納得したいという心理がはたらいているということだ。

私は、自分の数ある「知りたい・考えたい」というテーマの中から、そのときピンときたテーマの本を選んで家で読む。すると、すかさず子どもたちがその本について話しかけてくる。おかげで、息子が高校2年生になった今でも本を通じたコミュニケーションが成り立っているのだから、一日のうち、わずかでもその時間を共有している私は、とてつもなく幸福だ。

鬼石中学校　学校図書館司書　大黒　早苗

＊ 鬼中SDGs（図書委員会） ＊

鬼石中は、11月にユネスコスクールに正式加盟し、各委員会では、持続可能な開発目標の視点から、活動目標等を設定しています。

図書委員会では、

4　質の高い教育をみんなに

17　パートナーシップで目標を達成しよう

5　ジェンダー平等を実現しよう

という、3つ選びました。読書好きな生徒だけでなく、誰もが意識して本との関わりを持つことで、きっと人生が少し豊かになるはずです。

＊ ちょっと面白い読書の効用 ＊

書籍やインターネットの情報を検索していると、読書をするメリットについて様々なことが書かれています。それは、科学的根拠や経験や体験に基づく情報が多いと感じます。そのいくつかを紹介しましょう。

・ストレス解消効果がある
・脳の機能が向上する
・収入が増える
・IQが上がる
・人生の幸福度が上がる
・寿命が伸びる
・コミュニケーション能力が高まる　など

＊ぜひ、子供の明るい将来のために、一緒に考えましょう！
読書を実践しましょう！